

埼玉県立文書館

落成記念文書展

昭和58年6月1日～6月29日

〔「武蔵国全図」から〕

開 催 に あ た っ て

埼玉県立文書館は、郷土に関する古文書、記録及び行政文書等の散逸を防ぐとともに、広く県民に利用していただくことを目的として、全国に先がけて昭和44年に、県立浦和図書館内に設立されました。その後各方面の深い御理解を得て順調に収蔵文書もふえ、現在までに寄贈、寄託をいただいた古文書は180家余、約23万9千点、行政文書は約3万2千冊を数えるにいたっております。しかし、日々消滅の危機にさらされている文書史料の収集・整理・保存の増強を図る必要から、昭和54年度に新館舎の建設に着手いたしました。

今回の展示は、こうした経緯をもつ新館舎の落成を記念して、本館収蔵の各家文書からそれぞれ1点を展示し、埼玉県域における文書の移り変りを跡づけようとしたものであります。これを機会に県民の方々に広く文書史料のもつ歴史的な意義を御理解いただければ幸いと存じます。

また、文書館の成長を温かく見守ってくださった文書所有者の皆様には厚くお礼を申し述べるとともに、さらに、一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

昭和58年6月

埼玉県立文書館長 吉 本 富 男

展 示 解 説

中世の文書

本館が収蔵する中世文書は、県指定文化財6件を含み、総点数140余点にのぼっている。ここに展示したのはその一部であり、時代的には南北朝初頭から戦国時代末期にわたり、内容的には武家文書が中心となっている。

南北朝期のものでは、典型的な武蔵武士の文書といわれる安保安保文書や別符文書（複製）をはじめとして、足利尊氏の御判御教書などがある。室町・戦国期のものでは、関東管領上杉憲政の書状や後北条氏関係の文書が充実している。特に小田原に拠点をおいた後北条氏は、県内の鉢形（現寄居町）、岩付（現岩槻市）、河越（現川越市）など枢要な城に一族、家臣を配して在地支配にあたったので、これら支城主から出された文書がよく残されている。

中世文書は、古文書学上は数多くの様式に分類されているが、文書をその外見からみれば、差出

者の花押を署した判物と、印判を捺した印判状に大きくわけることができる。これらの花押や印判は、時代による流行があり、また同一人物でもいくつものものを使いわけることがあって大変バラエティに富んだものとなっている。文書の内容を歴史的事実に則して考察するだけでなく、書体の変遷や文字の配置、さらにこうした花押や印判の形態を観察することも、古文書鑑賞のひとつの方法であろう。

近世の文書

近世の古文書は、その残存量の膨大さとともに種類の豊富さを特色としているので、いまだ十分に体系的な分類はなされていない。本館では、地域の歴史にかかわる文書史料をできるだけ幅広く収集しようという方針から、狭い意味での文書のほかに、記録や絵図、木版本なども一括収蔵している。こうした雑多な内容をもつ近世文書を、今回の展示では、その作成・伝来の主体から武家文

書、寺社文書、村方（名主）文書に大別してみた。

〔武家文書〕

ここに展示したものは、大名やその家臣、幕府の直属家臣である旗本などの文書である。本県のように強大な大名領国が成立しなかった地域では、武家文書の伝来しているものはきわめて少ない。内容的には、家の由緒書や系図、旗本の知行宛行状、城下町の絵図、さらに鉄砲方など特殊な役向に関する文書が残されている。

〔寺社文書〕

寺社は近世社会において、武家とともに支配階級に属していた。残された文書も多岐にわたるが、寺院には本末体制とよばれる強固な寺院間の序列制度があり、それを表現する末寺許可状や僧位、僧官に対する各種の補任状が特徴的なものである。これらは、文書の様式上は古代、中世以来の論旨、宣旨、御教書等の形式を踏襲している。また学問、修業の履修を示す印信などの教義関係の文書には、在家のものには理解しがたいものが多い。本館収蔵の寺院関係文書の中では、修験道すなわち山伏関係のものが多く、ひとつの特色となっている。修験道は明治維新の際に廃止されたため、修験者の多くは還俗し、神官や帰農してしまった。

なお、神社については、特別の大神社を除いてあまり文書は残されていないようである。

〔村方（名主）文書〕

村方文書というのは、近世社会の根幹となった農村の名主の家に伝えられたもので、名主文書とも呼ばれる。ただし、ここでは便宜上宿場や在町の文書も一部含まれている。村方文書は非常に多種類の内容を含むものであるが、展示では次の11の主題に分類してみた。

まず村方文書のもっとも基本となるのは、**土地と年貢**に関する文書である。土地に関するものでは検地帳があげられ、これにより村の境界が定められ、耕地一筆ごとの耕作者がきめられていった。検地は、徳川家康の関東入国以来地域的な差異をもって実施されていき、元禄年間にはほぼ全県的に完了したようである。その後は見沼新田のような新田村落や小規模な新開地での例がみられる程度である。一方領主側は、この土地から租税として年貢を取立てていた。近世社会での年貢は、現在のように直接に個人に課税されるのではなく、

年貢割付状によって村落に一括して課され、それを個人持高に応じて小割をし、名主がまとめて納入するしくみであった。年貢に関する文書も領主、時代の相違によって様々な形態がみられる。

土地と共に領主側が支配の重点をおいたものが**戸口**、すなわち戸数と人口であった。はじめキリシタン禁制を契機に作成されたといわれる宗門人別帳が、近世社会の戸籍としての役割をもっていた。また村落においては五人組がつくられ、強固な連帯責任制度がとられていた。五人組帳の前書には、幕府の諸法令が数十カ条にわたって記され、農民がそれを遵守することを誓う形式となっている。

近世社会の根幹産業はもちろん水田稲作を主体とした農業である。そのためには**水利、治水**の施設を整えなければならなかった。近世初頭の伊奈忠次による備前渠用水の開設や、井沢弥惣兵衛による見沼代用水の開削などにより、多くの湿地が水田化されていった。用水の設備は農作業上ももっとも重要なものであり、村々では独自の組合をつくってその維持管理にあたったので、多数の文書が残されている。

次に**村落の概観**を文書史料の上からみておきたい。村のようすを平面的に図示したものが村絵図で、多くは色彩を伴ない墨色のみで文書の世界では異彩を放つものである。また耕地の状況をはじめ戸口、寺社、産業など村落の各方面について詳しく書上げたものが村明細帳である。その集大成とでもいうべきものが、幕府が文化7年から約15年をかけて編纂した『新編武蔵風土記稿』で、近世における本県域の状況を知るもっとも基本的な文献となっている。

このほか**法令や村政**に関する文書としては、名主が日々取扱った文書を書綴った御用留や村財政を窺わせる村入用帳などがあり、村議定や幕府の法令に対する請書なども重要なものであった。

普通の村落は、代官や領主によって支配がなされていたのであるが、江戸近郊の本県域では、將軍家や御三家の**鷹場**が設定され、野廻りや鳥見役により二重の支配をうけることになった。幕府は広大な捉飼場を有し、浦和、大宮、越谷付近にかけては紀州家の鷹場があった。鷹場内では、鳥類やそのえさを確保するためきびしい生活規制をし

たので農民には大きな負担となった。しかし一面では、野田の鷺山のような自然を残すことにもなったのである。

ここで村政の基本的な文書をはなれ、やや特殊な事項に眼をむけてみよう。

まず**産業**として農業およびその加工業、商業関係の文書を展示してみた。農業関係では、克明に農作業の日程を記した農業日記がみられる。また近世後期になると、本県内でも小規模ながら蚕糸、紙漉、藍染、酒造などが行なわれ、それに関する文書も各地に残されている。こうして生産された製品は交通の要地に成立した市において、流通経路にのせられていった。

次に**交通**関係を見ると、陸上交通と河川交通に大きく分けられる。陸上交通は、幕府の公用のために宿駅制度が設けられ、宿駅においては人馬の負担をすることになっていた。ところが交通量の増大とともにそれだけでは賄いきれず、近隣の村落から人馬を援助する助郷制度がとり入れられることになった。中山道、日光街道という幹線道路が通過する本県域では、助郷負担は大変大きなものとなっていた。一方河川交通もはじめは年貢米の輸送を主目的としたものであったが、除々に各地の特産品を輸送するようになっていった。県内の利根川、荒川、江戸川などの大河川の流域には、後背村落と密接な関連をもって河岸が成立し、物資の集散地として発展していった。舟運は、江戸と城下町川越を結ぶ新河岸川や、見沼代用水など小河川においても盛んであった。

こうして日々の生活が営まれていたわけであるが、時には大きな**災害**に襲われることもあった。天明3年の浅間山噴火を契機とした天明の凶作、さらに冷害を基因とした天保の凶作、本県東部低地に被害をもたらした安政の大地震などがあり、地域的な河川の氾濫は数えきれない程多発した。

ここで眼を私的な家の生活と文化の面に向けてみたい。**家**の文書としては、由緒書や慶弔の記録、神社仏閣へ参詣した時の日記などがある。次に**文化**の面をみると、まず当時の文化を担ったのは武

士であり、川越、岩槻、忍などの諸藩では子弟の教育のために藩校を設けていた。岩槻藩の儒者児玉南柯はこうした藩校教授として最も著名な人物である。近世も後期になると文化の領域でも武士の独占はなくなり、農村社会の中にも広く普及していった。その担い手となったのが村落の名主層で、漢学や和歌、考証学、さらに心学などを学んで後世に名を残している人物も多い。こうした文化水準向上の基礎となったのが寺子屋、私塾の存在であった。また幕末に政治情況が活性化してくると、これら名主層の中から志士として中央レベルで政治運動に参画するものも出現してきた。

近代の文書

明治維新以後の近代文書は、県や市町村の役場に保存されてきたものと、個人や団体に伝えられてきたものからなっている。

〔官庁文書〕

まず官庁文書を見ると、中心となるのは約3万2千冊にもものぼる埼玉県行政文書である。これは明治初年の旧藩引継書類から埼玉県の成立を経て現代まで続く膨大なものである。今回はこのうち歴史的にも注目される明治17年の秩父事件記録や明治22年の知事巡視書類、大正期の小作慣行調査そして現在の市町村制の基本となった戦後市町村合併の文書を展示した。

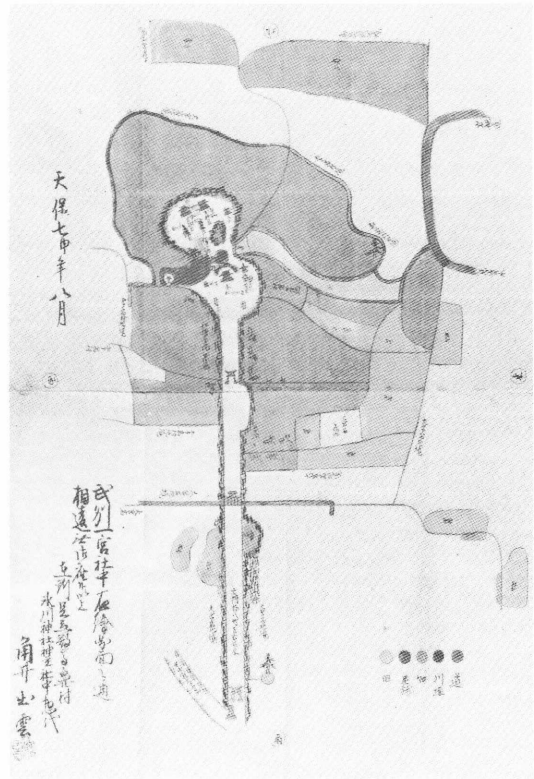
一方市町村の役場に残された行政文書も、本館では3件収蔵している。これらには地域社会での生活に密着したものが、比較的多く含まれている。

〔個人・団体の文書〕

次に個人・団体の文書を見ると、明治22年の町村合併までは村の事務は近世以来の名主の手によって行なわれることが多かった。そのため地租改正の台帳や布達類など公的な性格をもつ文書も、村方文書と一括に旧名主に伝存することがある。近代文書では純粹に個人的なものも多く、政治家や実業家の日記や書簡、教育者の実践活動記録なども収蔵されている。また団体では銀行や一般企業のもものが含まれている。

武州國言限和
 日向月多和月
 和由若然二打
 三百天輪及居同
 和是立約同書兼
 物必由打百事兼
 餘都合五百而
 事合較物一
 合元行一也
 和
 和

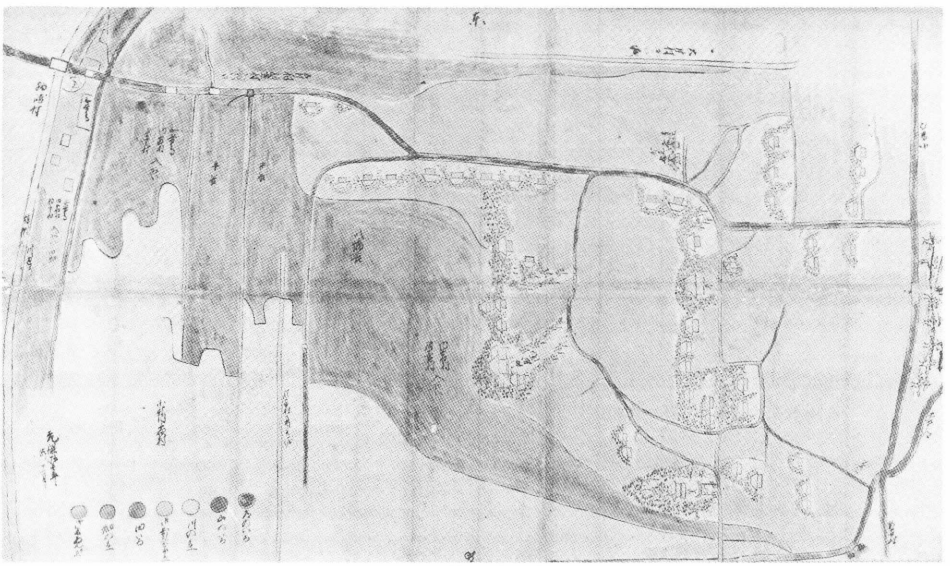
24 徳川秀忠知行宛行状



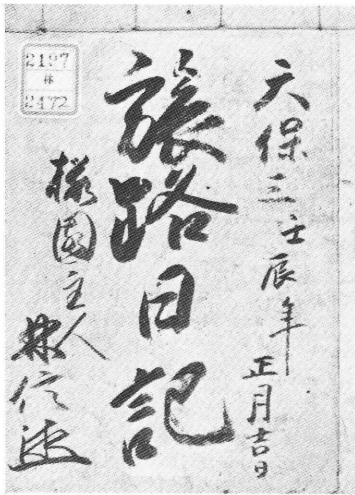
41 武州一宮氷川神社境内絵図

上房就大寺山私入自前代
 子例で、信於奉抄の中分
 被遠祀事被本罪神妙如
 四被補直奉藏平始七女每年
 入奉也懈怠深可被抽有云
 忠勤自由依
 聖護院門跡御氣色軌達
 和
 明治三年九月九日
 武州
 山本坊
 法印
 法印

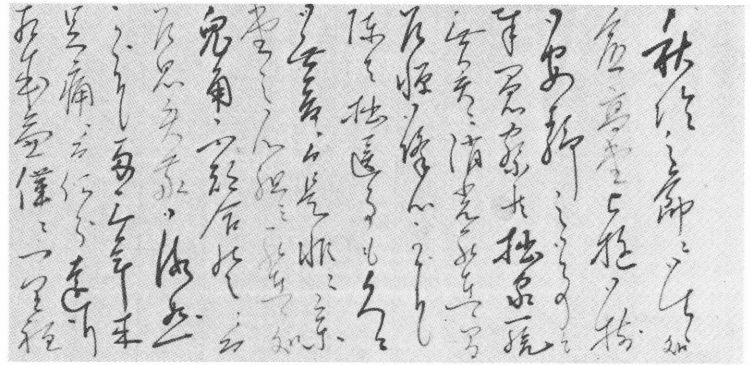
31 聖護院門跡御教書



72 足立郡羽貫村絵図



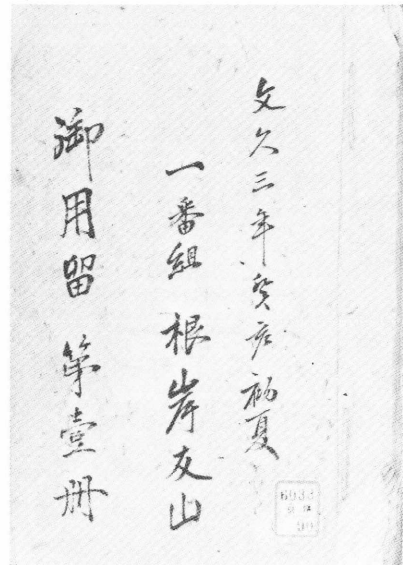
140 旅路日記



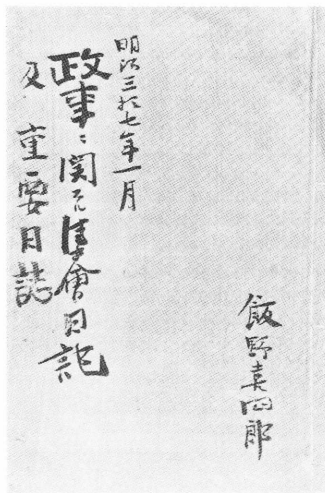
141 小室元貞宛伊古田純道書状(部分)



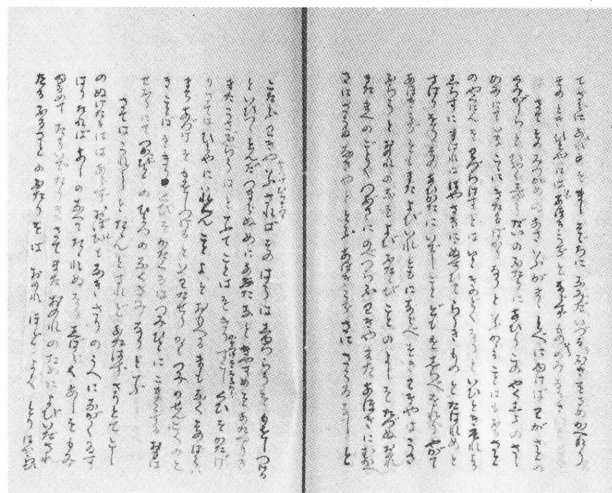
137 奥貫友山肖像画



144 新徴組御用留



179 政治ニ関スル集会日記及重要日誌



178 清水卯三郎著 わがよのき

展示番号	文 書 名	年 号	文 書 番 号
中世の文書			
1	足利尊氏御判御教書	建武元年2月	法華寺文書2
2	足利直義下文	建武3年12月	安保文書
3	雑訴決断所牒	建武元年10月	別符文書(複製)
4	足利持氏御判御教書	応永29年11月	清河寺文書2
5	上杉憲政書状	[天文15年]4月	文書館収集13
6	上杉憲当書状	天文16年12月	三戸家文書
7	鉢形城絵図		新田家文書
8	北条氏邦印判状	永禄7年6月	斎藤(古)家文書
9	北条氏邦印判状	庚午[元亀元年]極月	長谷部家文書2
10	北条氏邦印判状	[天正2年]3月	逸見家文書7
11	北条氏邦印判状	辰[天正8年]3月	金井家文書1
12	北条氏邦掟書	戊[天正14年]3月	持田(英)家文書4
13	太田資正判物	天文22年6月	忠恩寺文書2
14	北条家印判状	戊寅[天正6年]12月	道祖土家文書8
15	築田持助判物	天正3年3月	戸張家文書2
16	足利政氏判物	7月	龍興寺文書
17	安楽寺天神宮修造棟札	長享3年12月	梅園神社6
近世の文書			
〔武家文書〕			
18	忍城絵図		阿部家文書(複製)
19	岩槻藩諸席取調帳	天明4年9月	田口家文書5
20	岡部藩安部家家中分限帳	慶応4年5月	高橋家文書31
21	紙本着色岩崎長容筆 炮術形状図式	安政4年	田口(新)氏収集7
22	旗本遠山伝右衛門由緒明細書	宝暦8年12月	遠山家文書13
23	相州鎌倉打試大筒御用留	寛政6年5月	増木家文書
24	徳川秀忠知行宛行状	元和3年5月	稲生家文書1290
25	徳川家康坪割付		杉浦家文書
26	代官伊奈家奉公之覚書		新井(忠)氏収集
27	毛利輝元官途書出	慶長5年12月	井原家文書88
28	上杉家知行目録	慶長6年10月	石垣家文書26
〔寺社文書〕			
29	上醍醐光台院法流相統許可状	元禄3年正月	龍花院文書12
30	孝明天皇諭旨	安政3年3月	広正寺文書218
31	聖護院門跡御教書	明暦3年4月	相馬家文書332
32	不動院頼元証状	慶長9年8月	土屋家文書107
33	熊野三山奉行院号免許状	享保11年7月	榎本家文書44
34	徳川家光寺領寄進状	慶安元年8月	金剛院文書1
35	聖護院門跡御教書	天正19年2月	不動院文書2
36	足立郡浦輪玉蔵院本末帳	延宝3年8月	玉蔵院文書1
37	聖憲授聖僧成就院流印信	永和2年	明星院文書682
38	不動法次第	天明8年3月	高崎家文書
39	祠堂金証文	天保13年12月	観音寺文書
40	大願寺新古什物調帳	安政4年6月	大願寺文書88
41	武州一宮氷川神社境内絵図	天保7年8月	西角井家文書4824
〔村方文書〕			
一土地と年貢一			
42	足立郡柴岡郷内三室村御縄打水帳	天正19年9月	武笠神主家文書304
43	足立郡南部之内中丸之村御縄打水帳	天正19年11月	大島(圭)家文書1
44	比企郡八林之内上井草村御検地水帳	慶長14年9月	中村家文書1
45	足立郡安行筋寺山新田御検地帳	慶長20年9月	若谷家文書1
46	騎西之郡羽生之内今泉村御検地水帳	寛永8年8月	斎藤(治)家文書6

展示番号	文 書 名	年 号	文 書 番 号
47	騎西郡川辺之内下新井村御検地水帳与	寛永18年 8月	田代家文書 2
48	埼玉郡下早見村御検地水帳	元禄15年 8月	河合氏収集52
49	八貫野内足立郡本村新田検地帳	享保16年 5月	植田谷本区有文書 1
50	上平須賀村年貢割付状	巳〔慶長10年〕 9月	船川家文書954
51	葛梅村年貢割付状	慶安元年 9月	相沢家文書1161
52	大塚村年貢割付状	寛永 3年12月	松岡家文書4108
53	松平石見上給宮之下村年貢請取状	寛永 4年 2月	大塚家文書167
54	太田部村年貢請取状	寛永19年極月	新井家文書1616
55	二郷半領下彦川戸村御年貢米永可納庭帳	宝暦 2年	千代田家文書 6
56	中曾根村年貢皆済目録	寛延 2年 2月	長谷川(勇)氏収集331
57	旗本島田氏祝儀上納金下知書	天保 8年 5月	厚沢家文書1189
—戸 口—			
58	矢納村御仕置御條目五人組帳	安永 6年	川鍋家文書 2
59	上吉見領樋口村惣百姓宗旨御改之帳	元禄10年	平山(小)家文書112
60	入間郡新戸口村宗門人別御改帳	嘉永 5年 3月	福島(圭)家文書 4
61	所久喜村惣百姓判鏡帳	享保 3年 4月	内田(正)家文書112
—水利と治水—			
62	備前堀記録	天明 8年	備前渠土地改良区 3
63	伊佐沼用水水論記録		荒川右岸土地改良区
64	古隅田川水除新方圍堤御普請下目論見帳	弘化 3年 9月	山口家文書11
65	見沼代用水路堤切所浚其外御普請出来形帳	安政 7年 3月	大熊(正)家文書345
66	利根川新井筋垵樋閘棹見守役任命状	享保14年10月	坂東家文書219
67	赤堀川切広之図		田口(栄)文書 1797
68	明治年間見沼代用水元垵樋管伏替図	明治13年	見沼土地改良区100
—村落の概観—			
69	埼玉郡小曾根村絵図	天保 7年 7月	東家文書156
70	児玉郡下阿久原村絵図		浅見家文書1486
71	日光御社参二付箕輪村銘細絵図控帳	明和 7年 6月	吉田(愛)家文書35
72	足立郡羽貫村絵図	元禄11年11月	加藤家文書2200
73	賀美郡四間在家村高反別并二万差出牒	元禄11年 4月	松原家文書34
74	足立郡与野町明細差出覚	宝暦 9年11月	荒井(精)氏収集140
75	林大学頭手附出役地誌調先触写	文政 5年 9月	杉田家文書149
76	埼玉郡大室村明細帳	文政 3年 4月	大熊(み)家文書 1
77	葛飾郡銚子口村村鑑銘細書上帳	文政10年 3月	銚子口区有文書131
78	武蔵国全図		稲村氏収集 431
—法令と村政—			
79	異国船渡来ニ付組合村々請書	嘉永 7年 2月	川島家文書40
80	御一新ニ付議定書	明治 2年 4月	矢部(み)家文書 1
81	千塚村御用留	寛政 4年	遠藤家文書34
82	原馬室村御用留	天保 9年	藤井(真)家文書12
83	埼玉郡大畑村記録		押田家文書
84	下総国葛飾郡上金崎村入用帳	宝暦 8年	土生津家文書4355
85	粕壁宿公用日記	天保11年	中島家文書 2
86	北根村境争論訴状	元和 4年 6月	宇野家文書2090
87	名主役引継ニ付村方書類請取	元文元年 8月	倉川家文書50
88	苗字上下差免状	安政 3年	平川家文書1574
89	名主役下知書	安政 6年10月	白石家文書2521
—鷹 場—			
90	御鷹場ニ被仰付ニ付一札	享保 3年 5月	鬼久保家文書1748
91	御鷹飼鳥判鑑	文政10年12月	田部井家文書40
92	御捉飼場村高地頭姓名并御鷹御用向手控帳	嘉永 7年 8月	飯島(徳)氏収集190
93	御鷹御捉飼場御法度御請書帳	安政 2年 8月	増田家文書440

展示番号	文 書 名	年 号	文 書 番 号
94	御鷹御廃止二付受印帳	慶応3年5月	田中(一)家文書81
95	日光御成道鷺藪絵図		会田家文書1950
一産	業一		
96	浅野長吉禁制	天正18年7月	浦和宿本陣文書3
97	高力清長掟書	慶長6年霜月	勝田家文書160
98	高麗郡梅原村高麗市再興願書	文化2年2月	堀口家文書1115
99	秩父郡大野村大河原御用炭一件	享保17年	森田家文書494
100	比企郡大河原郷紙漉屋敷江金錢配当帳	慶応4年3月	大野家文書79
101	蚕繭買賣商覚帳	安永6年	平山家文書967
102	金尾村山漆之木書上帳	元文元年10月	山下氏収集
103	旛羅郡妻沼村外廿六ヶ村農間渡世書上帳	天保14年6月	長島家文書160
104	藍玉仕入帳	嘉永2年2月	川田氏収集597
105	農業日記覚帳	文政2年9月	荒井(辰)家文書2
106	農業日記帳	嘉永6年正月	幸手図書館文書200
107	売薬大福帳	文化7年	鈴木(芳)家文書400
108	店卸帳	文久4年正月	橋本氏収集
109	家守手形	貞享元年	小島(栄)家文書400
110	質地証文	宝暦9年3月	関口氏収集26
111	酒造株金上納請取	天保4年6月	吉野家文書232
一交	通一		
112	駄賃高札(木版)	正徳元年5月	藤城家文書
113	上尾宿定助郷并代助郷差村高書上帳	文政7年5月	友光家文書32
114	粕壁宿助郷村々議定書	文久2年10月	小林(誠)家文書33
115	和宮下向之節深谷宿助郷目印旗		野口家文書
116	通行手形	嘉永4年12月	飯島(利)家文書549
117	見沼通船会所地借地証文	享保19年2月	篠崎家文書2809
118	津出し場二付一札	安永2年3月	鈴木(宗)家文書66
119	御手船新艘御注文帳	文化14年2月	正田家文書90
120	水揚駄賃給金帳	嘉永6年正月	西川家文書1
121	船計量書上帳	明治8年	中川家文書
一災	害一		
122	浅間山噴火之図	天明3年7月	野中家文書
123	浅間山騒動之事	天明3年7月	久保家文書2175
124	天保年中飢饉穀相場覚	天保4年	持田(文)家文書4
125	大地震二付諸職人請書	安政2年10月	諸井(興)家文書
126	地震絵之写	安政2年12月	武笠(寛)家文書37
一家一			
127	吉田家記録		吉田(市)家文書6
128	石黒家由緒書		石黒家文書
129	香奠帳	享保5年3月	関根家文書1
130	秩父巡礼納経帳	文久3年11月	諸井家文書423
131	石橋建立勸化帳	寛政5年8月	武笠(昇)家文書3
132	伊勢参宮銭別覚帳	文政10年正月	畑家文書3
133	不動尊御本堂仕用帳	天保11年	三村家文書11
134	奉公人請状	天保12年12月	鈴木(侂)家文書2
一文	化一		
135	児玉南柯著 漂客紀事	文化元年	児玉南柯文書140
136	若林嘉陵先生墓銘		若林家文書206
137	紙本着色奥貫友山肖像画		奥貫家文書
138	大島有隣人足寄場江教諭出仕二付覚書	文政2年9月	大島有隣文書67
139	屋代弘賢尺座起立二付身元引請依頼状	天保6年11月	小島(昭)家文書472
140	旅路日記	天保3年	林(茂)家文書2472

展示番号	文 書 名	年 号	文 書 番 号
141	小室元貞宛伊古田純道書状	9月	小室家文書
142	越ヶ谷瓜の蔓		福井家文書18
143	手習子供名面覚帳	慶応4年	猪鼻家文書1269
144	新徴組御用留	文久3年	根岸(喜)家文書90
145	太田錦城百律(木版)	文化6年正月	大栄寺文書59
146	実語教童子教具註鈔(木版)		矢部(寿)家文書10
147	孟子卷之十一(木版)		林(正)家文書4
148	常盤津稽古本(木版)		中山家文書
149	井上淑蔭著 石剣考	明治2年4月	井上家文書
150	新編武蔵風土記稿(木版)		町田家文書
151	埼玉県地誌略(木版)	明治13年12月	小林(稔)家文書
152	鎌倉長谷観世音略縁起(木版)		藤井(昌)氏収集2
153	史徴墨宝考証		吉田(猛)氏収集66
近代の文書			
〔官庁文書〕			
154	熊谷県管下布達	明治7年	県行政文書 明144
155	埼玉県報第一号	明治19年8月	県行政文書 県1
156	秩父暴徒始末	明治17年	県行政文書 明949
157	知事管内巡視功程	明治22年10月	県行政文書 明975
158	埼玉県及北足立郡小作慣行調査書	大正元年	県行政文書 大142
159	市町村廃置分合(春日部市設置)	昭和29年	県行政文書 8771
160	比企郡平村役場諸衙達綴	明治35年	平村役場文書
161	北足立郡馬室村役場村会議決関係書綴	昭和19年	馬室村役場文書532
162	比企郡大河村役場衣料品に関する綴	昭和22年	大河村役場文書227
〔個人・団体の文書〕			
163	埼玉県職員表	明治8年9月	森泉家文書4702
164	熊谷県職員分課一覽表	明治8年9月	教育史移籍文書145
165	熊谷県廃止ニ付吉田清英書状	[明治9年]8月	白根家文書35
166	第二次七名社結成ニ付石川弥一郎書状	明治11年1月	長谷川(英)家文書964
167	七名社会日届書	明治11年9月	古沢家文書
168	比企郡広野村地券元帳	明治6年1月	広野区有文書154
169	地租改正顧問人日記	明治10年3月	鈴木(庸)家文書
170	焼酎造高差出ニ付達	明治9年12月	根岸(一)家文書
171	新座郡根岸村村会規則	明治14年12月	内田家文書8
172	御達書御届書留簿	明治7年6月	奥住家文書28
173	社寺古器物古文書儲書目録	明治13年	蕪塚氏収集12
174	槻川村同志会規約	明治35年12月	福島(卓)家文書63
175	第八十五国立銀行創立願書	明治11年3月	埼玉銀行文書3250
176	ホフマン窯原図	明治30年10月	日本練瓦文書1
177	蚕糸業調査報告書	明治40年	蚕糸業協会文書1
178	清水卯三郎著 わがよのき 上		清水家文書
179	政治ニ関スル集会日記及重要日誌	明治35年1月	飯野家文書
180	年中日記	明治45年1月	田中(修)家文書7
181	第三次埼玉新聞	明治16年3月	吉田(佐)家文書2125
182	私立埼玉英和学校起原誌	明治27年	岡戸家文書3
183	教授訓練ノ主義方針		中原家文書
184	神道富士教会先達免許状	大正6年9月	武藤家文書1
185	防空の心得		伊達家文書

会期中一部展示替えをすることがあります。

浦和市高砂4-3-18 埼玉県立文書館